鹿児島の自然だより　第 211 号　　令和５年 11 月１日　鹿児島県立博物館発行

植物 84

屋久島の植物

植物担当　金本　直子

現在開催中の企画展「蔵出し　屋久島」では，日本で初めて世界自然遺産に登録された屋久島の自然の魅力を，本館に収蔵されている標本と写真で紹介しています。今回の自然だよりでは，世界自然遺産として評価された植生と自然景観について紹介します。

植生の垂直分布

屋久島が世界自然遺産に登録される際，評価されたことの１つに世界的に重要な「植生の垂直分布」があります。

植生とは，ある場所に生育している植物の集団のことをいいます。そして，植生が標高とともに移り変わることを垂直分布といいます。なぜ標高とともに植生が移り変わるのかというと，標高とともに気温が変化するからです。100ｍ上がると，気温は約0.6℃下がり，それぞれの環境に適した植物が生育するため植生が移り変わります。

屋久島が含まれる暖温帯地域では，開発等で天然林がほとんど残っていません。屋久島に残る海岸線から山頂部までの連続した天然林の垂直分布は世界的にも貴重なものです。

低地にはガジュマルやシダ植物などの亜熱帯性の植物が分布し，標高 1,000ｍにかけてシイやカシなどの照葉樹林が広がります。また，標高 800ｍからは，照葉樹林にまじり，スギやモミなどの針葉樹林が現れ始めます。さらに，標高 1,800ｍになると，ヤクシマダケ草原と所々にヤクシマシャクナゲなどの落葉低木の群落が広がります。

屋久島には，九州最高峰の宮之浦岳（標高 1,936ｍ）を中心とした 1,800ｍ以上の標高の山岳が10座あり，そのような山に登ると世界的に重要な植生の垂直分布を実際に観察することができます。

屋久杉を含む自然林の自然景観

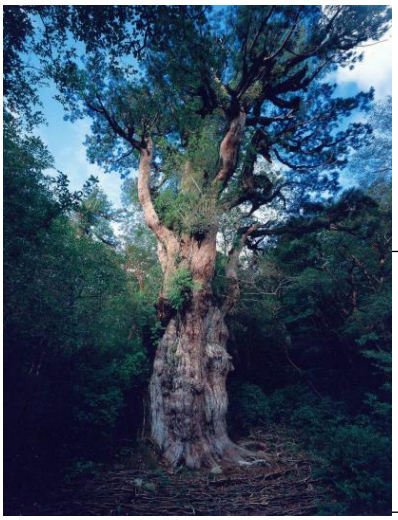
もう一つの評価された点は，「優れた自然景観」です。古いものでは樹齢 3,000 年ともいわれる屋久杉を含む天然林は，世界的に類をみない自然景観として評価されました。

スギは日本固有の樹木で，北海道と沖縄県を除く日本全土に広く分布しています。スギの名前の由来は「真っ直ぐな木」といわれ，材木として利用価値が高く，日本で最も植林されている樹木です。屋久杉も植林されたスギも同じスギですが，屋久杉には長寿という特徴があります。スギの平均的な寿命は 500 年といわれていますが，樹齢が 2,000 年を超える屋久杉が島内には数多く見られます。屋久杉は栄養分の少ない花こう岩の山地に育つため，ゆっくりと成長し，年輪が細かく，樹脂と呼ばれる油がつまっていて腐りにくいことが長寿の理由といわれています。

私自身，約30年前に屋久島を訪れた際，縄文杉のあまりの大きさに圧倒されたことを今でもはっきりと覚えています。

世界自然遺産は，永久的なものではありません。登録の際に評価されていた価値が失われてしまうと登録は取り消されてしまいます。これからも屋久島の「植生の垂直分布」や「自然景観」を守り，後世に世界自然遺産を引き継いでいくことは，現代を生きる私たちの使命だと思います。

ヤクシマシャクナゲ　ツツジ科
　屋久島町の町花。５～６月頃に赤色や桃色の花をつけます。



スギ　ヒノキ科
　縄文杉は，現在確認されている最大の屋久杉です。樹齢は 2,000 年以上といわれています。